

2020年3月期 決算説明資料

菊水電子工業株式会社
www.kikusui.co.jp



コンパクト・ワイドレンジ直流電源
PWR-01シリーズ

目次

会社紹介

P3～

2020年3月期 連結業績概要

P12～

2021年3月期 連結業績予想

P23～

今後の事業戦略

P25～

会社紹介

会社紹介

● 会社概要 (2020年3月末現在)

社名(銘柄コード)	菊水電子工業株式会社(6912)	
設立	1951年(昭和26年)8月8日	
資本金	22億125万円(3月決算)	
発行済株式数	9,900,000株(1単元株数100株)	
事業内容	各種電子計測器・産業用電源装置・ソフトウェアの設計、製造、販売及び輸出入	
大株主 (自己株式は含まず)	株式会社ケーティーエム	10.99%
	菊水取引先持株会	10.09%
	菊水電子工業従業員持株会	5.12%
	株式会社みずほ銀行	4.35%
	小林寛子	4.19%
	日本生命保険相互会社	3.64%
	ケル株式会社	2.66%
	株式会社三菱UFJ銀行	2.59%
	橋本幸雄	2.27%
	アジア電子工業株式会社	2.26%
代表者	代表取締役社長 小林一夫	
従業員数 (当社グループ)	319名(2020年3月末現在) []は前年比増減 研究開発: 96名 [+10] 生産・購買: 75名 [± 0] 営業: 115名 [+12] 管理: 33名 [+ 5]	
主要納入先 (順不同)	防衛省、株式会社日立製作所、株式会社東芝、三菱電機株式会社、日本電気株式会社、トヨタ自動車株式会社、株式会社デンソー	



会社紹介

● 国内外拠点・関連子会社



会社紹介

沿革

1951
昭和26年

株式会社菊水電波設立
8月8日、東京都大田区麻込にて
資本金30万円、役員4名、従業員8名で発足
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業社長 小林 証
(当時の写真、31歳)

初期のダイヤル

創業時の建物

創業メンバー
小林正則(相談役)、小林 証(創業者)、尾崎栄造(副社長)
渡辺正理(取締役)、一柳敏郎、広島 隆ら

1957
昭和32年

**ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ**
許諾商かダイヤルの売上を上回る
OEMのトランジスタラジオも生産

低周波アキッド発振器
QC-39A
独特のダイヤル方式
なかなか便利な製品であった

ロングウェーブTRラジオ
TR-604
OEM提供していた
トランジスタラジオ

1961-62
昭和36～37年

菊水電子工業株式会社
全国各営業所
専任で商品・専任社員・専任設備
専任工場・専任流通経路

ダイオードコネクタ 587A
受入調整済みの受取型(ダイオード調整
済みの「1000」型)は、国内市場
最大の受入調整済みの部品メーカー

真空管電圧計 PM-107
一機調整済みのアナログ型
計測1000V標準型
ヘッドマーク型

型は工場中継

1971-74
昭和46～49年

創立20周年
第一次創業の年
名古屋、水戸に営業所開設
電子計測機の導入

20周年記念の日本支店

1966-68
昭和41～43年

第一次躍進の年
品質向上運動
品質管理科(品質管理課)の設置、計測の普及
ISO 9001の導入、品質管理科(品質管理課)の設置、計測の普及
の取組により、品質向上運動は、
品質管理科(品質管理課)の設置、計測の普及

新製品の発表会

計測器の展示

計測器の展示

計測器の展示

1981-82
昭和56～57年

米空軍との大型商談
オシロ7160台(23億円)
オシロ7000シリーズ(計測器)の納入
北米営業所開設

計測器で米軍の一番札
毎日新聞
初の
計測器で米軍の一番札
計測器で米軍の一番札

一度で納む米軍の一番札(1982)

一度で納む米軍の一番札(1982)

1985-88
昭和60～63年

オシロスコープCOM3000シリーズ
グッドデザイン産業機械部門大賞を受賞
オランダに「菊水ヨーロッパ」を設立
英国マルコーニ・インストゥルメンツ社と
日本総代理店契約締結

計測器業界初の快挙!

グッドデザイン産業機械部門
大賞を受賞した
オシロスコープ
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ
営業が歩かずとも広告だけで
どんどん注文が舞い込んだヒット製品

1989-91
平成元～3年

株式会社店頭公開
西東京営業所 開設
専属物流会社
クイアールシー株式会社設立

1991年11月
株主による新株発行数：76万株
発行総額：2,330万円/1株

1989年6月
立川市に
西東京営業所
開設

株式会社公開の旧本社(川崎市中原区)
9年3月期 売上高112億、従業員数386名であった

2000-01
平成12～13年

ISO14001 認証取得
計測器の品質向上
品質向上の取り組み
品質向上の取り組み

2001年発売の4製品がグッドデザイン賞を受賞!

GOOD DESIGN AWARD 2001

計測器の品質向上
品質向上の取り組み
品質向上の取り組み

1995
平成7年












ISO9001 認証取得
計測器の品質向上
品質向上の取り組み
品質向上の取り組み

1995年12月22日
品質マネジメントシステム
ISO9001 認証を取得
登録証番号: JGA-1100

計測器の品質向上
品質向上の取り組み
品質向上の取り組み

会社紹介(事業概要)

● 事業活動トピックス

		 <中国>  <米国>	
<新製品> ・PATシリーズ(直流) 	<経営施策> ・創立55周年記念行事	2005 ・大連化学物理研(DICP)技術提携	・キクスイ・アメリカ設立(販売拠点)
・KHA1000(EMC) ・PLZ6000R(回生負荷) ・TOS3200(漏洩電流試験器) ・PWR、PCR-Mラインアップ追加		2006 ・菊水貿易(上海)設立(販売拠点)	・グローバル製品上市(PCR-Mシリーズ) 
 ・PATスマートラック	・国内営業所統廃合	2007	 <欧州> ・欧州代理店網再編… ・Electronica 2008出展
・KHA3000(EMC) ・PFX2511(バッテリー充放電試験システム)		2008	
・TOS5300シリーズ(耐電圧・絶縁抵抗試験器) ・Milla-E50(電気自動車(EV)急速充電器)		2009 ・菊水貿易(上海)の分公司統廃合 ・生産拠点の合理化(菊水電子(蘇州)閉鎖)	
・PCR-LEシリーズ(高機能交流電源) ・PWXシリーズ(薄型直流電源)	・創立60周年記念行事	2010	・Electronica 2010出展
・PCR-LE、PWXラインアップ追加 ・Milla-E20(電気自動車(EV)急速充電器)		2011	
・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器) ・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充		2012	・Electronica 2012出展
・TOS7210S(PID絶縁試験器) ・TOS5200(耐電圧試験器)		2013 ・深圳分公司設立	
・PMX-Aシリーズ(小型直流電源)		2014	・Electronica 2014出展
		2015	
・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷)	・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設	2016	 ・Electronica 2016出展
・PWR-01シリーズ(直流電源)	・本社移転	2017 ・ソリューションWEBサイト開設	・ソリューションWEBサイト開設
・PCR-WE/WE2シリーズ(交流電源)		2018 ・北京分公司設立	・トーランス市に移転 ・Electronica 2018出展
・TOS9300シリーズ(電気安全規格試験マルチアナライザ)		2019	・ドイツ駐在員事務所を開設

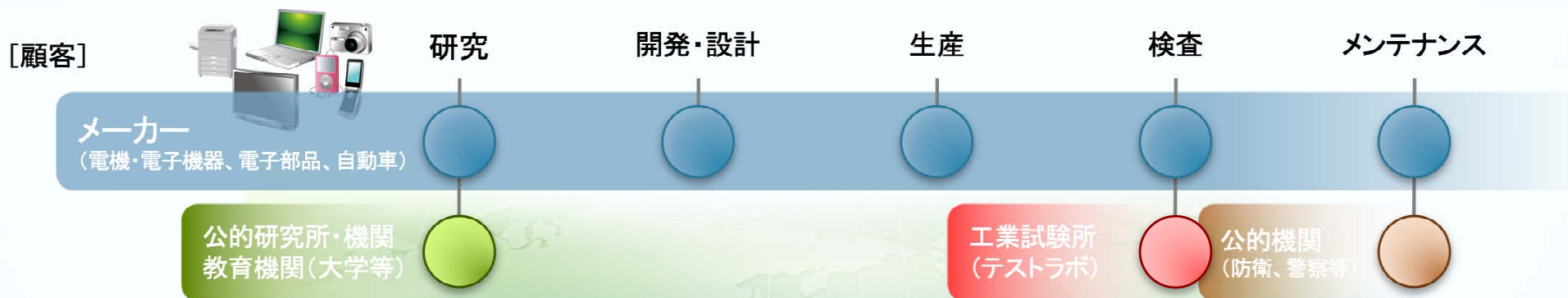
会社紹介

● ビジネスモデル

当社の独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)



グローバルに販売展開！

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、**自動車のノイズ耐性(EMC)**に関する試験、また**EV用バッテリーの絶縁性能試験**の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器



EMC試験器



電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、**ハイブリッドカー・電気自動車の評価**に必須となる**電子負荷装置**(電力を消費する装置)、**パワーコンディショナー**などの**評価に必要な交流電源**の需要が高まっています。

直流電源



交流電源



電子負荷



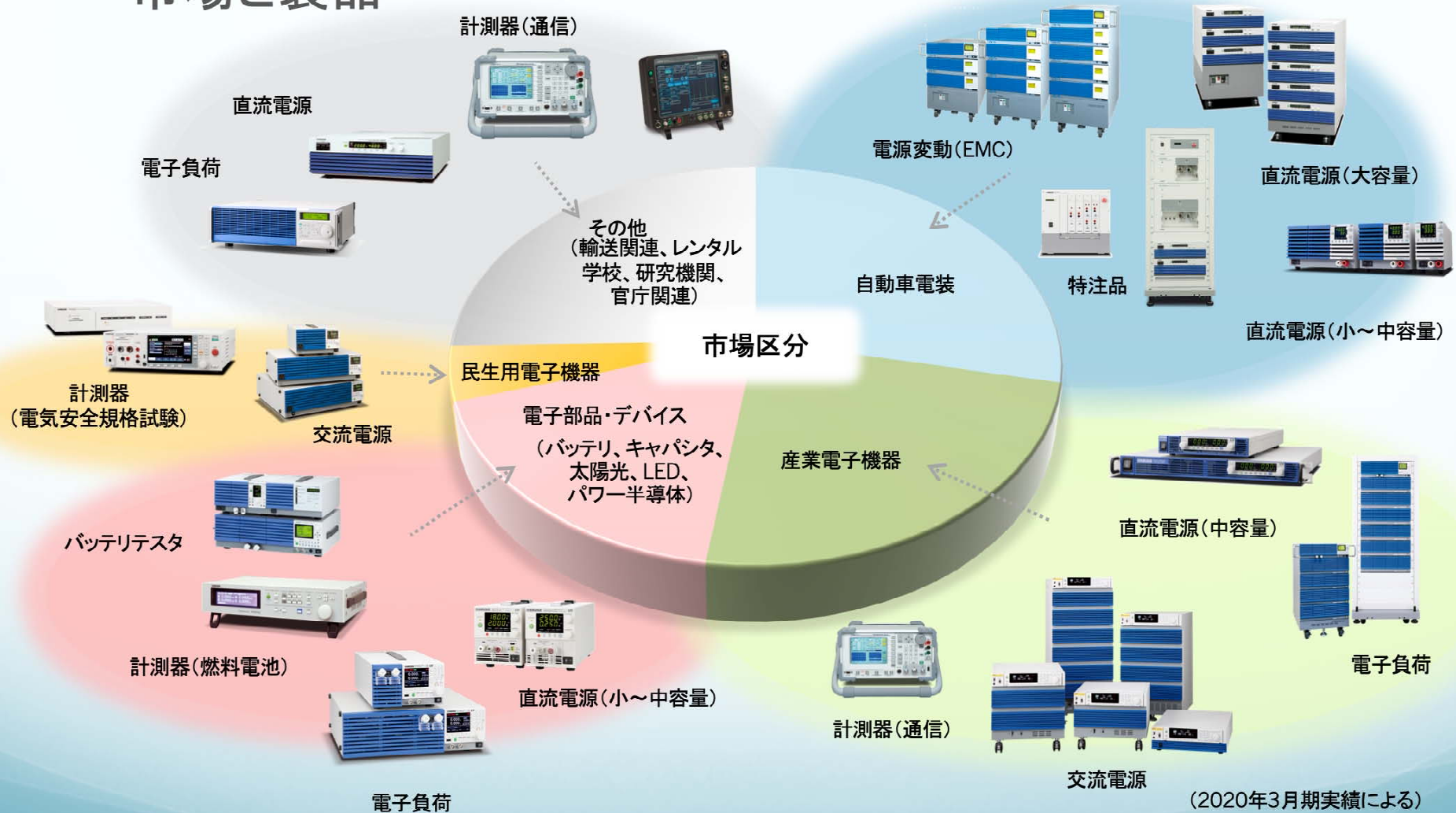
KIKUSUI

KIKUSUI ELECTRONICS CORPORATION

決算説明資料 2020年 5月

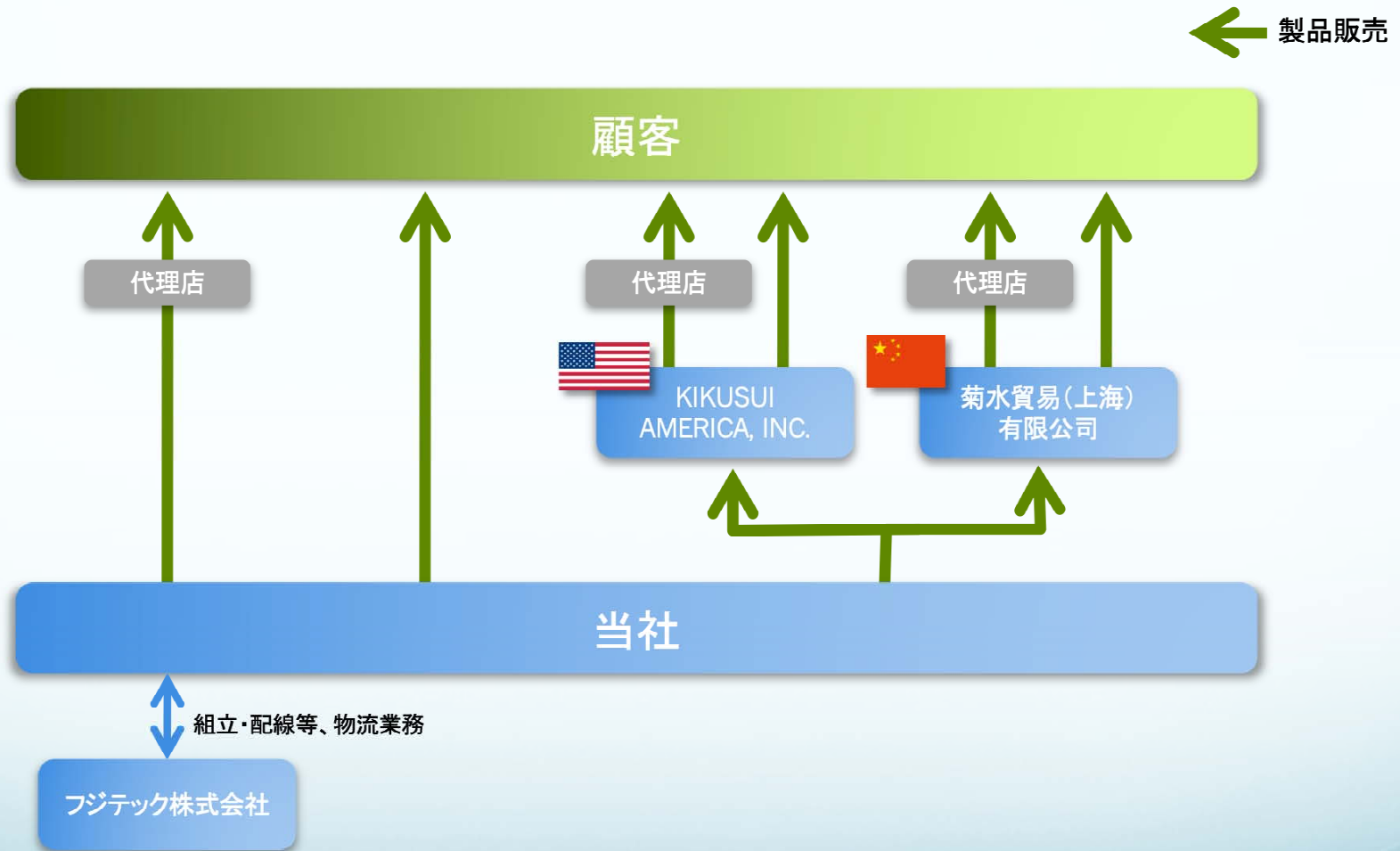
会社紹介(事業概要)

● 市場と製品



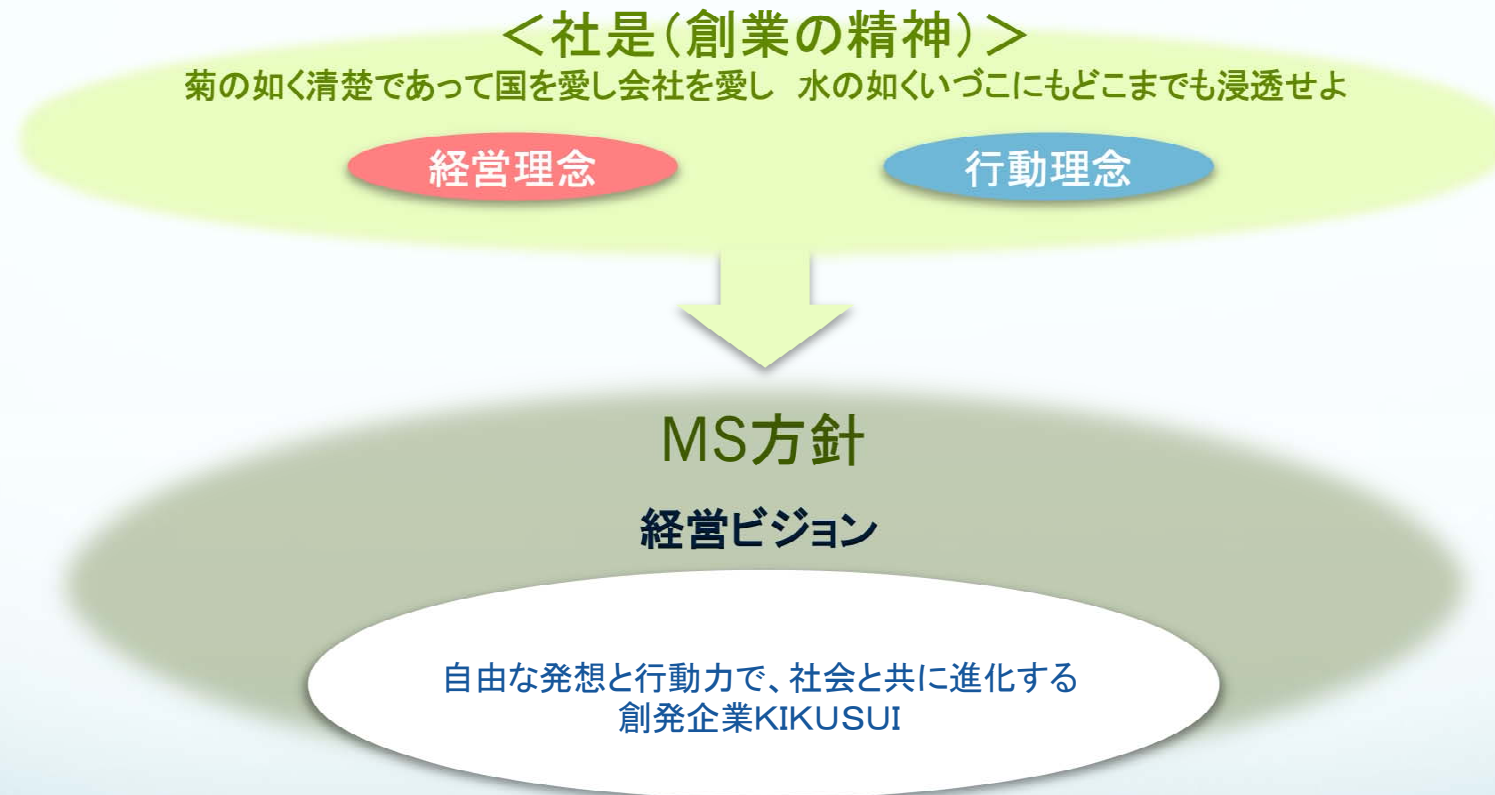
会社紹介

- 事業系統図



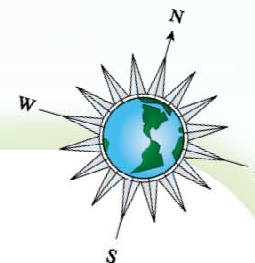
会社紹介

- コーポレートステートメント



2020年3月期 連結業績概要

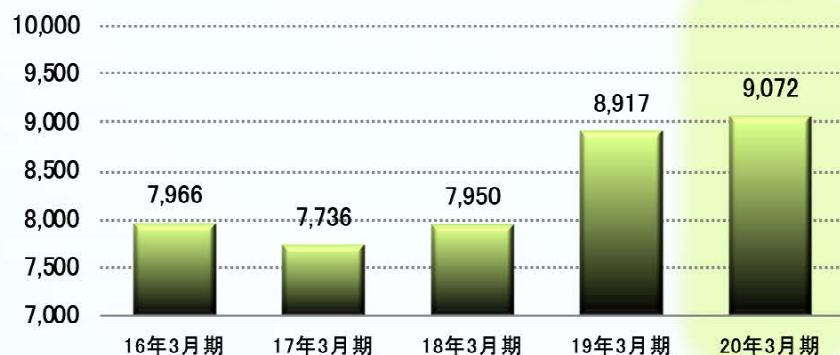
2020年3月期 連結業績概要



● 決算サマリー

- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

売上高



単位: 百万円

経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、当社グループの重点市場である次世代自動車関連市場では、EV(電気自動車)、自動運転、先進安全自動車及びこれらに関わる市場からの電気計測器の需要は慎重な姿勢が見られ、減速傾向にありました。また、冷凍空調市場では、省エネ対策だけではなく、システムの省力化・自動化等高付加価値化への取り組みに対する設備投資は堅調でありましたが、全般的な需要動向は国内外の経済減速の影響により厳しい状況にありました。

このような状況の中、当社グループは、米中貿易摩擦の長期化等による世界経済減速の影響に加え、直近の新型コロナウイルス感染症拡大により一部部品や製品の調達、生産及び営業活動に支障をきたすなどの影響もありましたが、次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたシステム提案営業を積極的に展開し、また、組織人事等海外市場への販売体制強化策の実施や販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、海外売上高が増加したこと等により、90億7千2百万円(前年同期比1.7%増)となりました。

損益面におきましては、

人材の維持・確保に伴う人件費及び研究開発費の増加等により、営業利益6億5千4百万円(前年同期比6.0%減)、経常利益6億6千万円(前年同期比5.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益3千8百万円を特別利益に計上したことにより4億9千5百万円(前年同期比11.6%増)となりました。

2020年3月期 連結業績概要

● 損益計算書

	19年/3月期		20年/3月期		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	8,917		9,072		155	1.7
売上原価	4,270	47.9	4,373	48.2	103	2.4
売上総利益	4,646	52.1	4,698	51.8	52	1.1
販売費及び一般管理費	3,950	44.3	4,044	44.6	93	2.4
営業利益	696	7.8	654	7.2	△41	△6.0
営業外収益	58	0.7	67	0.7	8	15.3
営業外費用	53	0.6	61	0.7	7	14.7
経常利益	701	7.9	660	7.3	△40	△5.8
特別利益	—	—	38	0.4	38	—
特別損失	26	0.3	—	—	△26	—
税金等調整前当期純利益	675	7.6	699	7.7	23	3.5
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	227	2.6	203	2.2	△24	△10.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	443	5.0	495	5.5	51	11.6
1株当たり当期純利益	53.52円		59.94円			

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

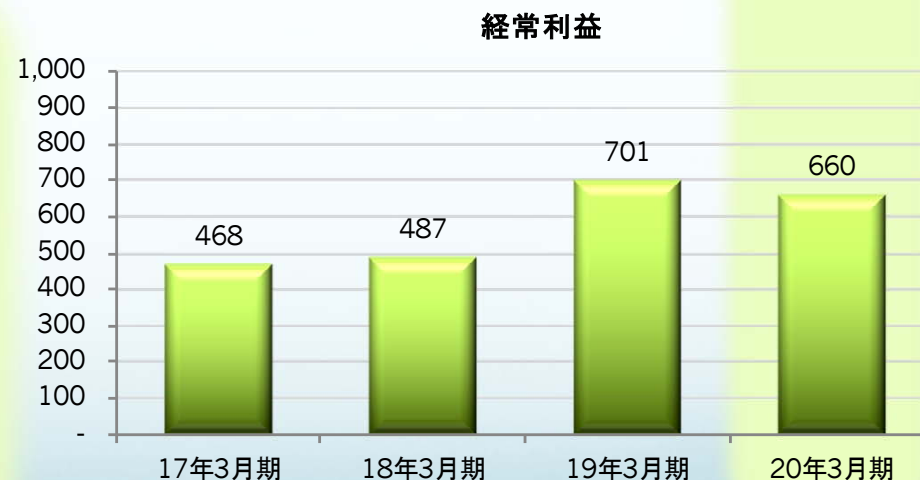
2020年3月期 連結業績概要

● 売上高と経常利益

- 売上高: 9,072百万円
【前年同期 8,917百万円】 **+1.7%**
- 経常利益: 660百万円
【前年同期 701百万円】 **△5.8%**
- 親会社株主に帰属する
当期純利益: 495百万円
【前年同期 443百万円】 **+11.6%**



単位: 百万円



Point



次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたシステム提案営業を積極的に展開し、また、組織人事等海外市場への販売体制強化策の実施や販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、海外売上高が増加したこと等により、90億7千2百万円(前年同期比1.7%増)となりました。

損益面におきましては、人材の維持・確保に伴う人件費及び研究開発費の増加等により、営業利益6億5千4百万円(前年同期比6.0%減)、経常利益6億6千万円(前年同期比5.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益3千8百万円を特別利益に計上したことにより4億9千5百万円(前年同期比11.6%増)となりました。

2020年3月期 連結業績概要

● 製品群別売上概況

- **電子計測器**: 2,098百万円
【前年同期 2,020 百万円】 **+3.8%**
- **電源機器**: 6,638百万円
【前年同期 6,559 百万円】 **+1.2%**
- **その他**: 335百万円
【前年同期 337百万円】 **△0.5%**

Point



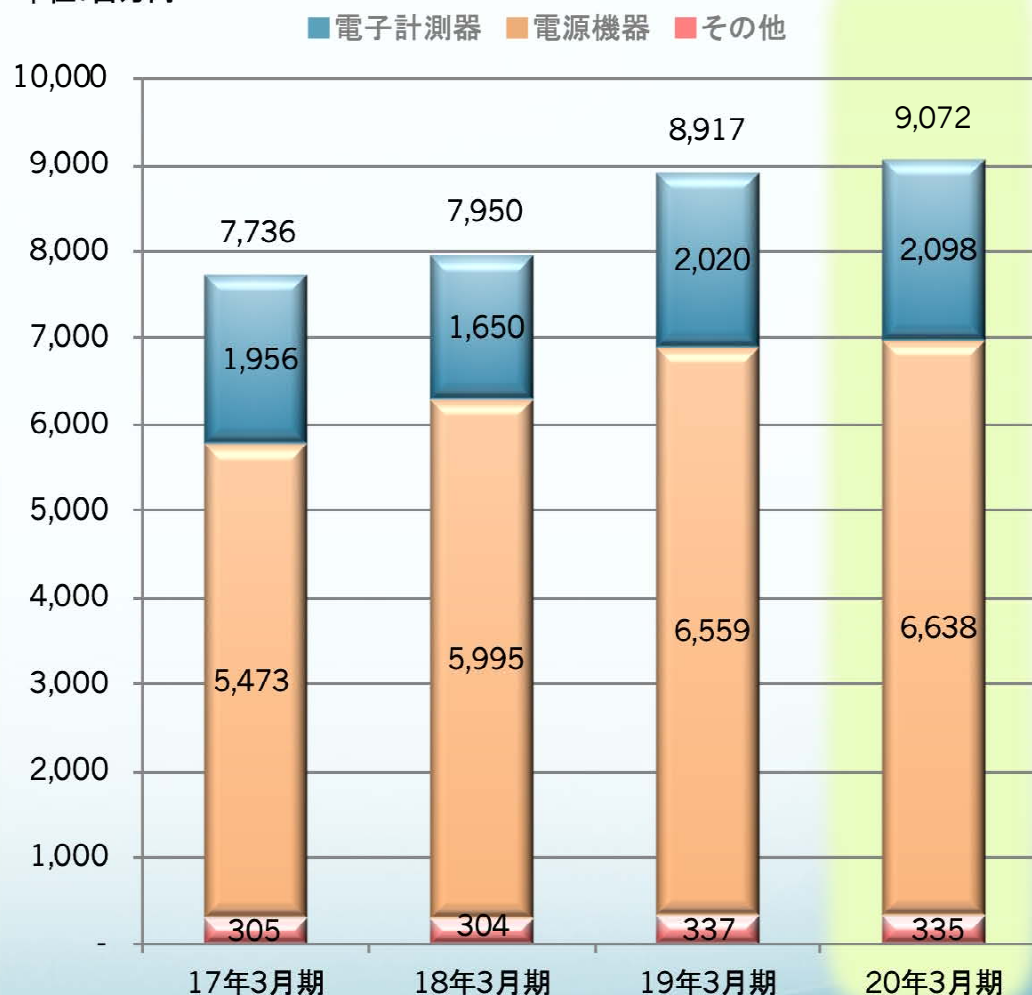
《電子計測器群》

電子計測器群では、航空機用電子機器の測定器は受注が低調であったことから前年同期比減となりました。安全関連試験機器は、耐電圧・絶縁抵抗試験用としてエネルギー市場や車載関連市場において動きがありました。また、EMC(電磁的両立性)関連機器が好調に推移いたしました。

《電源機器群》

電源機器群では、直流電源は、次世代自動車関連市場への試験用供給電源として動きがありました。製造業の設備投資抑制の動きが一段と増したことにより装置駆動用途等の需要が減少するなど、全般的に低調に推移いたしました。交流電源は、小型多機能・大容量製品であるPCR-WE/WE2の販売効果もあり、車載関連市場、情報通信関連市場や航空機産業市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、車載関連市場及び情報通信関連市場への評価試験用として高電圧大容量のPLZ-5WHを中心に好調に推移いたしました。

単位: 百万円



2020年3月期 連結業績概要

● 製品群別売上高構成比

- 電子計測器: 23.1%
【前年同期 22.7%】 **+0.4%**
- 電源機器: 73.2%
【前年同期 73.5%】 **△0.3%**
- その他: 3.7%
【前年同期 3.8%】 **△0.1%**

Point

電源機器の落ち込み及び電子計測器の増加により、電子計測器の構成比率が上昇しました。



■ 電子計測器
■ 電源機器
■ その他



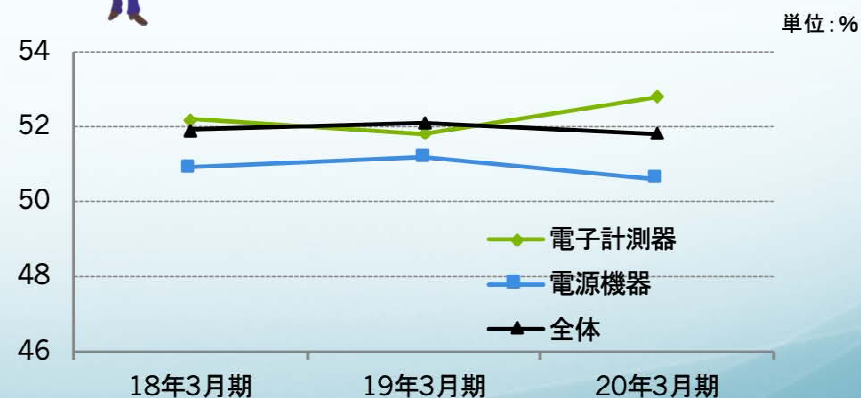
● 製品群別売上総利益率

- 電子計測器: 52.8%
【前年同期 51.8%】 **+1.0%**
- 電源機器: 50.6%
【前年同期 51.2%】 **△0.6%**

売上総利益率: 51.8%
【前年同期 52.1%】 **△0.3%**

Point

原価低減の効果により電子計測器が若干改善されました。



2020年3月期 連結業績概要

● 海外売上高

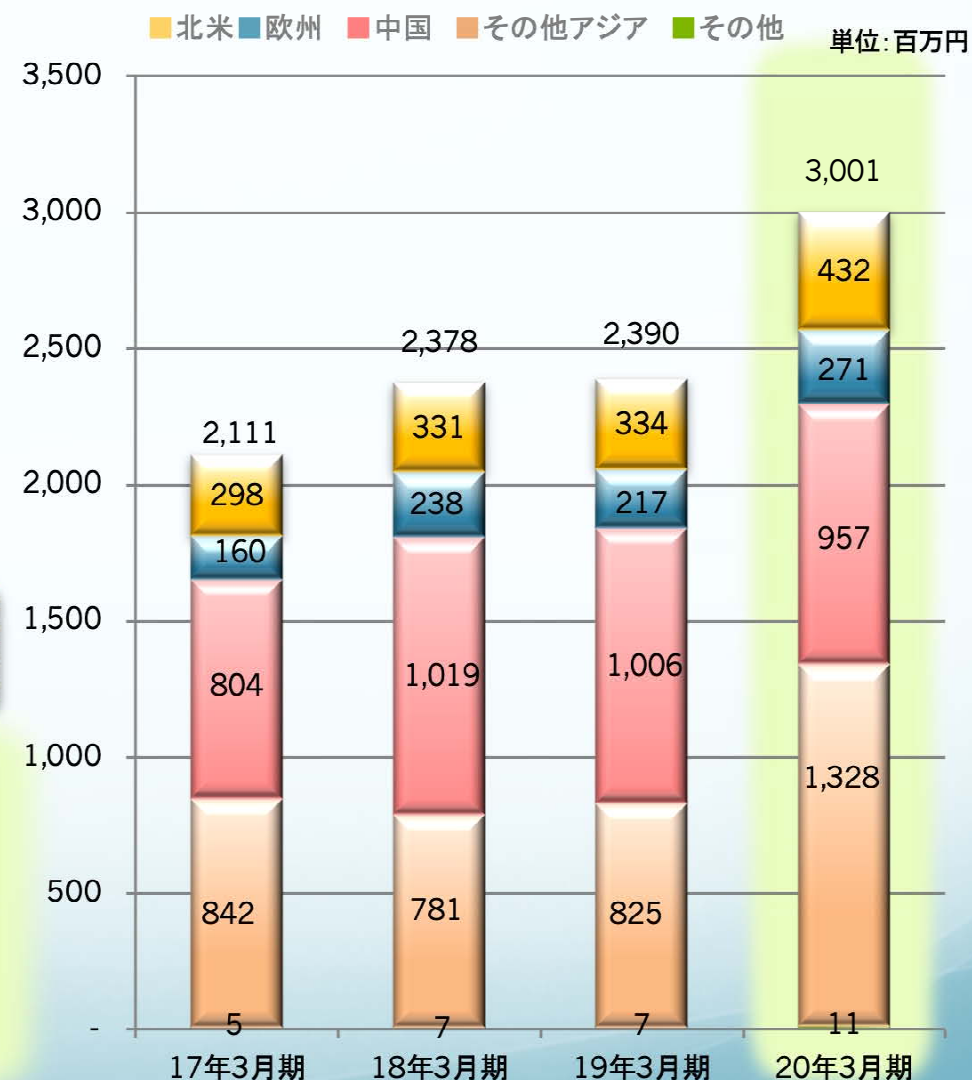
- **北米: 432百万円**
【前年同期 334百万円】 **+29.2%**
- **欧州: 271百万円**
【前年同期 217百万円】 **+24.4%**
- **中国: 957百万円**
【前年同期 1,006百万円】 **△4.8%**
- **その他アジア: 1,328百万円**
【前年同期 824百万円】 **+61.2%**
- **その他の地域: 11百万円**
【前年同期 7百万円】 **+57.8%**

海外販売高合計: 3,001百万円
【前年同期 2,390百万円】 **+25.5%**

Point



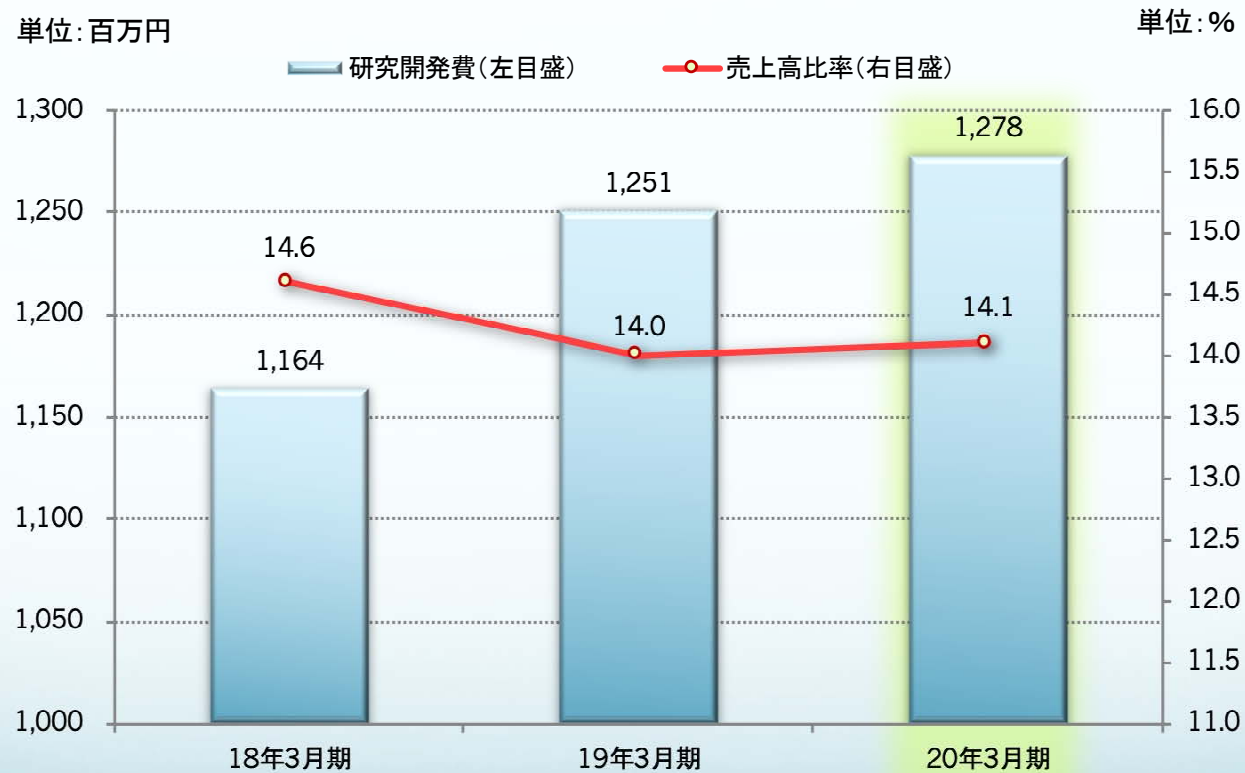
米国では、航空宇宙産業市場やICT(情報通信技術)関連市場への交流電源及び直流電源が好調に推移いたしました。欧州では、航空機器産業市場や車載関連市場向けの交流電源や電子負荷装置が好調に推移いたしました。アジアにおいては、中国では米中貿易摩擦長期化の影響があったものの、エネルギー市場への安全関連試験機器や車載関連市場への電子負荷装置に動きが見られました。韓国では次世代自動車関連市場への交流電源や電子負荷装置、また、東南アジアではICT関連市場への交流電源がそれぞれ好調に推移いたしました。



2020年3月期 連結業績概要

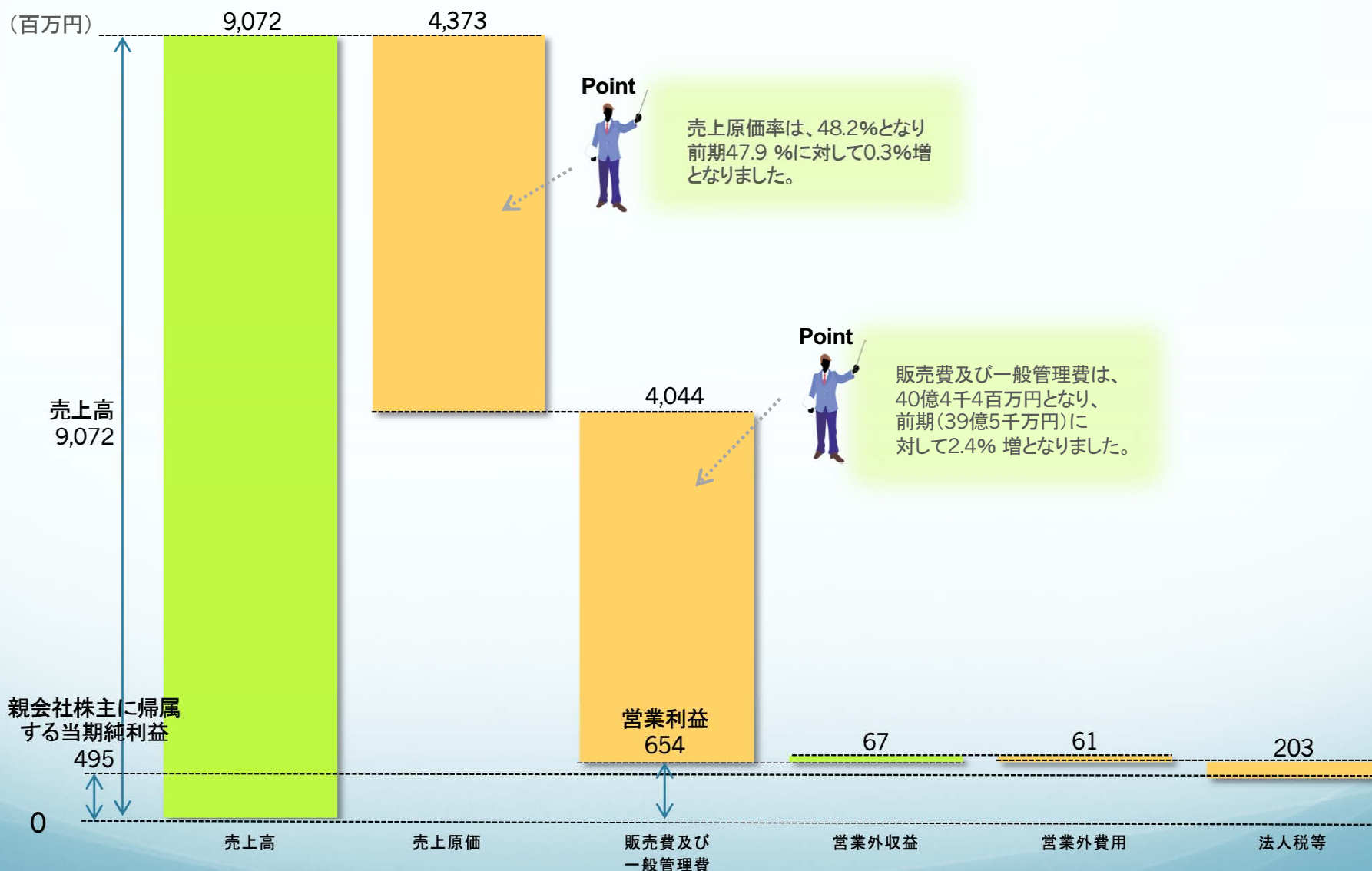
● 研究開発投資 (対売上高比率)

- 1,278百万円 (14.1%)
【前年同期 1,251百万円 (14.0%)】



2020年3月期 連結業績概要

● 損益の概況



2020年3月期 連結業績概要

● 貸借対照表

単位:百万円

【資産の部】	19/3期	20/3期	増減
流動資産合計	6,927	6,945	18
固定資産合計	4,832	4,710	△122
資産合計	11,759	11,655	△103
【負債の部】	19/3期	20/3期	増減
流動負債合計	1,705	1,564	△141
固定負債合計	649	585	△63
負債合計	2,354	2,150	△204
【純資産の部】	19/3期	20/3期	増減
資本金	2,201	2,201	0
資本・利益剰余金	7,518	7,834	316
自己株式	△820	△806	14
その他の包括利益累計額合計	505	276	△229
純資産合計	9,404	9,505	100

2020年3月期 連結業績概要

● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位:百万円	18年/3月期	19年/3月期	20年/3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	257	501	796
投資活動によるキャッシュ・フロー	△375	△567	△307
財務活動によるキャッシュ・フロー	△218	△255	△193
現金及び現金同等物の増減額	△334	△326	257
現金及び現金同等物の期首残高	2,867	2,533	2,206
現金及び現金同等物の期末残高	2,533	2,206	2,464

単位:百万円



Point



営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上等による資金の増加が、仕入債務の減少等による資金の減少を上回り、7億6千9百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により、△3億7百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、△1億9千3百万円となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、2億5千7百万円増加し、24億6千4百万円となりました。

	18/3期	19/3期	20/3期
■ 営業CF	257	501	796
■ 投資CF	△ 375	△ 567	△ 307
■ フリーCF	△ 118	△ 65	461

2021年3月期 連結業績予想

2021年3月期 連結業績予想

	20年/3月期	21年/3月期	
	当期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円) 前期比増減率(%)
売上高	9,072		
営業利益	654		
経常利益	660		
親会社株主に帰属する 当期純利益	495		
	20年/3月期		
	当期実績(円)		
1株当たり 配当金	23.00		

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国内外企業の事業活動の停滞に伴う製造業の設備投資の先送り、サプライチェーン及び物流の停滞による部品・製品の調達や納品遅延など、社会的・経済的に混乱が続いているため、現時点において合理的に算定することが困難であることから、未定としております。今後、業績への影響を慎重に見極め、業績予想の算定が可能となった段階で速やかに開示いたします。

今後の事業戦略

今後の事業戦略

次世代自動車分野に注力



米国、アジアを中心に海外市場拡販を強化！



KIKUSUI

KIKUSUI ELECTRONICS CORPORATION

本資料における注意事項

本資料は、2020年3月期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2020年5月14日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水電子工業株式会社 総務部 IR担当

TEL:045(482)6912 E-mail:ir@kikusui.co.jp URL:<https://www.kikusui.co.jp/>